

# 園だより

2023年度2月号

2024年2月1日発行

おはよう！

庭先の紅梅が咲き始め、保育園の裏庭に“めじろ”がやってきて、かわいらしい鳴き声に癒され…春の訪れが近づいていると感じるこの頃です。同じように、子どもたちの「おはよう！」のあいさつにも癒される毎日を送っています。

唐突ですが、私には、3人の子どもがいます。子どもといっても成人していますが。先日、地域の防災訓練に参加した際、「あなたのことはよく知らないけれど、お子さんのことは知っています。大きくなってもしっかりと挨拶してくれるのよ。とても嬉しいの。」と、声を掛けられました。その話を聞いていたほかの方にも同様の言葉をかけていただきました。私のことをほめられたわけではないのですが、心が高揚したことを覚えています。防犯の観点から、やたらと挨拶をしないほうがいい、という考え方もあるようですが、私は、挨拶の大切さを、様々な場面で実感しています。一昨年、病気になり、心が沈んでしまいがちな日々の中、治療のため、病院に行くと、担当医や看護師さん、職員の方々に、まず、「おはようございます」と挨拶されました。目を見て挨拶をしてくれることとの有難さ…私の存在を認められているという心強く、そして、一緒に頑張っていこうという、メッセージを受け取った感じがしました。

辛いはずの治療の日も、いつの間にか、辛いと楽しみが半々になっていく心の変化に、なんだかおかしさも感じていました。最後の日には、治療終了は嬉しいけれど、会えなくなってしまうのが、寂しいと感じるほどでした。挨拶には、不思議な力があります。遠くに感じていた人間関係も、勇気をもって挨拶をすると、距離が縮んでいきます。

讚美歌Ⅱ26番“ちいさなかごに”という歌の2番に、

♪おはようとの挨拶を ころころ込めてかわすなら その日一日お互いに ころころよく過ごすでしょう…♪ という詩があります。私も、その人に寄り添った挨拶ができているかな、子どもたちのような、挨拶ができていないかな、いつか挨拶の達人になる！とは思ってはいませんが、毎日の挨拶を大切にしていこうと思います。



「おはようございます。ご機嫌はいかがですか？」

副主任 茅根 礼子